

# 通信コスト削減と同時にPBXの機能強化も実現



IPA402の隠れた魅力といえるのが、小型PBX/ビジネスホンではあまりサポートされていない着信転送やコールバックなどの付加機能をIP電話ゲートウェイ側で提供している点だ。通信コストの削減のみならず、PBXの機能強化も実現しているのだ。

IP電話ゲートウェイIPA402は、A.少額の初期投資でPBXをIP電話に収容でき、大幅な通信コストの削減が図れる。

B.ダイヤルインなどユーザーの既存の番号環境にPBXの設定変更を伴わずにIP電話を統合できる。という2つの点で中小、中堅企業を中心としたユーザーの高い評価を受けている。

加えて、この製品が支持される理由として見逃せないのが、「コールバック」や「着信転送」などユーザーにとって利用価値の高い機能を搭載していることだ。今回は、他にはないIPA402の特徴である機能に焦点を当ててみる。

## 1 コールバック機能

コールバック機能は、事前に登録

した携帯電話や一般加入電話からの着信があると、IPA402が発信者の発信者番号を検知して、その番号にコールバック折り返し発呼を行うもの。この機能を使えば、営業社員が携帯電話で連絡をとる際などの通話料を、会社の回線に課金させることができる。

これにより通信費の経理処理が簡素化できるだけでなく、「IP電話発携帯電話着」の割安な通話料を利用し、通信コストの削減も図れる。

具体的な利用形態を説明しよう。この機能を利用するには、事前にコールバックを許可する電話番号をIPA402に登録しておく必要がある。

設定は、IPA402のLANポートにPCを接続し、Web設定画面を表示させ、「高度な設定」中の「コールバックの設定」をクリックする。

表示された設定画面の入力フィールドに電話番号を入力し、設定ボタンをクリックする。この画面には20個までの携帯電話番号が登録可能だ【画面1】。

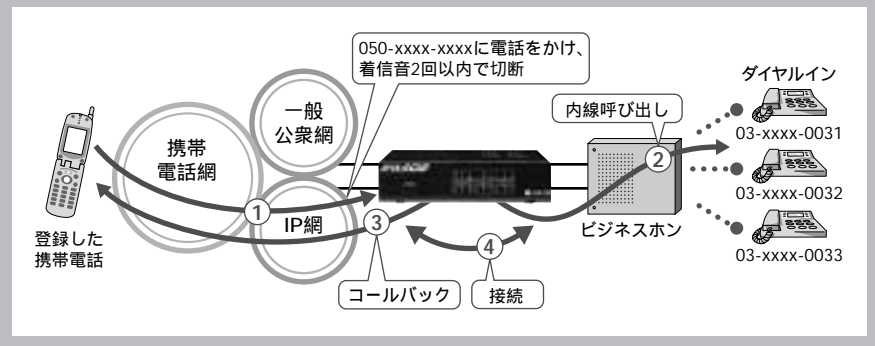
次に、実際の利用手順を、登録済み携帯電話からIPA402に接続されているPBXに収容されているダイヤルイン番号に発呼するケースでみてみよう。

携帯電話から電話をかけ、呼び出し音2回以内(6秒以内)で一旦通話を切る。この間は内線電話機の呼び出し音は鳴らない

電話が切れると、IPA402が該当する内線電話番号を呼び出す。ユーザーが受話器を取ると、IPA402はIP電話経由で該当の携帯電話に発呼する。

着信すると、内線電話との回線

図1 コールバック機能のイメージ



【画面1】コールバックを許可する電話番号を20個まで登録できる「コールバックの設定画面」下端の「コールバック中継発信許可」をチェックすると、コールバック中継発信が利用できるようになる

を接続し通信が可能になる。

なお、携帯電話が2回以内に電話を切らない場合には、内線電話側の呼び出し音が鳴り始めるので、内線電話の受話器を取れば通常通りの通話もできる。

## 2 コールバック中継発信機能

前述のコールバックの拡張機能といえるのが、「コールバック中継発信機能」だ。IPA402を中継することで、携帯電話への課金を発生させずに、他の固定電話や携帯電話と通話できる機能だ。

設定は、前述の「コールバックの設定」を行った後に、画面下方にある「コールバック中継発信許可」のボタンをチェックするだけ。これにより通話手順が以下のように変更される。

コールバックの場合と同様、携帯電話から会社の番号に電話をかけ、呼び出し音2回以内で電話を切ると、IPA402から携帯電話に着信する。

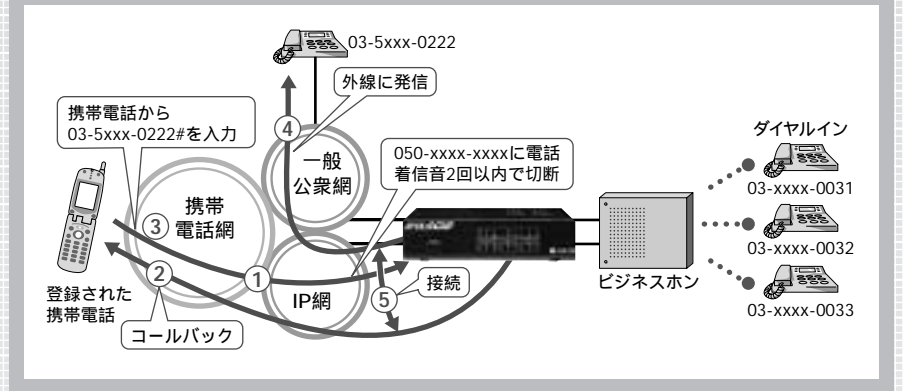
電話を取ると携帯電話の受話器から「ツツツ」という発信音が流れるので、それに続いて「呼び出したい電話番号」+「#」を入力すると、該当の番号へ接続され、通話が可能となる。また「0#」を押せば、内線電話を呼び出して、通話することも可能だ。

この機能は、IPA402から携帯電話へのコールバック呼出しを、内線だけでなく外線にも接続できるようにしたものである。

## 3 着信転送機能

1、2と同様、オフィス外で仕事をする機会の多い人にとって便利な機能が「着信転送」だ。

図2 コールバック中継発信のイメージ



これは、外出時などにオフィスのダイヤルイン番号などにかかってきた電話を事前に登録した携帯電話や固定電話に転送するもの。

この機能を使うためには、事前にWeb設定画面の「ISDN回線の設定」項の「発着信の設定」の設定画面でダイヤルイン、i・ナンバー、契約回線などの番号ごとに転送先の電話番号を登録しておく必要がある【画面2】。

転送の設定は、PBXに接続されている内線電話機から「5555」で外線発信を行ってIPA402の応答後「2\*1」を入力すると「設定」され、「2\*0」を押すと「解除」となる。

着信転送の設定・解除は事前に登録しておいた携帯電話や固定電話で外出先から操作することもできる。この番号の登録は、Web設定画面の「ISDN回線の設定」の項の「リモコン設定」をクリックして表示される設定画面で行なうことができ、「リモコン設定を許可する電話番号」を3つまで登録できる【画面3】。この画面には「リモコン設定用暗証番号」の登録フィールドがあり、ここに4桁の数字からなる暗証番号を登録する。

外出先からの設定手順は、登録された携帯電話や固定電話から



【画面2】着信転送の設定を行なう「発着信の設定画面」



【画面3】リモコン操作の許可する電話番号は、「リモコン設定」で3つまで登録できる

IPA402のISDN回線番号に発信し、応答後に暗証番号を入力。その後「2\*1」の入力で「設定」、「2\*0」で「解除」となる。

コールバックや着信転送などは、特に小規模事業所でのニーズの高いものだ。導入によりこれらの機能が追加される点もIPA402の大きな魅力といえそうだ。